

東南アジア研究センター 1966年度第2・四半期報告

1966年度第2・四半期にあたる7月から9月にいたる期間の、東南アジア研究の進捗状況を要約報告する。

調査研究計画のうち社会科学部門としては、石井米雄助教授（東南ア研）が前期につづき**バンコク連絡事務所**の責任をとるとともに、タイ新国立図書館で隷農制・農奴制の崩壊過程にかんする文献研究を進めている。水野浩一研修員（東南ア研）は8月に2カ年に近い東北タイ村落調査をおえ帰国、飯島茂助手（東南ア研）は7月でもって泰緬国境のカレン族の定着調査を終え、8月いらいロンドンの大英博物館図書室で文献調査を行なっている。

自然科学部門では、福井捷朗大学院学生（農）がバンコクのバンケン米作試験場に席をおいて水稲の植物栄養学的研究をつづけ、また高谷好一研究生（工）は8月いらいチュラロンコン大学に研究室をもって、メナム流域沖積層の地史学的調査をはじめた。同じく水稲生産の土壤肥料学的研究のため、高橋英一教授と松尾嘉郎助教授（農）は8～9月タイ・マレーシア・カンボジアに赴き、山口真一教授（防災研）は火山性地すべりの予備研究として、ジャワ、バリ、ルソン諸島の現場を調査した。昨年度にひきつづき、本年度も9月いらい小野尊睦助教授と佐藤匠・天野義彦助手（医）は主としてタイで慢性弗素中毒症の実地調査を行ない、小野・佐藤両氏はインド・セイロンに調査をひろげている。また前川暢夫助教授（結核研）は8～9月、カンボジア・タイ・マレーシアで結核の疫学と化学療法の実態調査を行なった。

養成計画としての1966年度留学生のうち、まず坂本恭章助手（東京外語大AA研）が8月カンボジアに派遣された。

交換計画では、8月に、タイ国研究会議ブントム自然科学課長をわが国に招待したほか、7月オックスフォード大学ローズ教授、8月国際稲作研究所チャンドラー所長がそれぞれ研究例会で講演された。その他インドネシア大学スマントリ総長をはじめ、この3カ月間に約40名の外人専門家の来訪をみた。

出版計画としては、この期間に『東南アジア研究』第4巻第1号、『東南アジア研究センター所報』Ⅲとその英文版の *Center for Southeast Asian Studies, III, 1965/66* が予定どおり刊行されたほか、昨年6月開催されたシンポジウムのプロシーディングである *Japan's Future in Southeast Asia* が Symposium Series No. 2 として出版された。

なお、この期間第1期5カ年計画の研究成果のとりまとめと、1968年4月からはじまる第2期5カ年計画の準備に努力をつづけてきた。

1966年9月

京都大学東南アジア研究センター所長

岩 村 忍